

K S K P
N o . 3



パンジー
だより

発行 1993年9月

編集 刈エイブハウス
“パンジー”

オープンして6カ月が過ぎました。新しい場所での新しい人達との「であい」に無我夢中の日々は過ぎ、7月と8月は、できてない事ばかりが目につく時期でした。「あせってもしかたがないんだよ。軌道にのるには1年かかるんだよ。」と、自分で自分をなだめている日々が多かったように思います。9月になって少しづつですが、それぞれの人達がそれぞれのパートで、同じ方向に向かって歩み始めたような気がしています。

この期間にみんなで真剣に話し合われたことのひとつに、「通って来ている人達の給料」の件があります。現状のままでは、現在の給料の額を維持するのが困難だという事です。しかし、みんな下げるのはイヤだと言うのです。そしてどうしよう。いろいろな案がでました。その中から、午後からパンの店売りを始める、チラシ配布の仕事始める、年末に向けてチョコレート販売する、街頭カンパにいくなどが、みんなの自治会である「どらえもん会」で決定し、早速実行されています。

また、会議への参加やガイドヘルパーの人達との活動の機会が増えるにつれ、主体的な発言や行動が多くなっています。いつも昼頃顔を見せるA君。それが、会議や集会の時は、どんなに早い集合時間でもやって来ます。そして、みんなを苦笑いさせてしまうような質問も含めて何度も発言しています。現在のA君にとって、みんなの注目の中でしゃべるのは、きっと「楽しい事」なのでしょう。そしてみんなの楽しそうに発言するのに触発されてか、あまり声を聞いたことのないH君が、いつのまにか、発言していたりします。また、しゃべれない人も、「したい事」の頼み方がうまくなっています。手をつかんで、さいふをみせて、「一緒に買い物に行こう。」と、さそっています。そして、その人に断られたら次の人に。訪問者だろうと誰だろうと、行きたい気持ちを身体で表現しています。

保護される存在から、主張する存在へ！みんな、そのおもしろさが、わかりかけてきたかな？ ……しかし、なかなか難しい…… (よしみ)

各部門より紹介

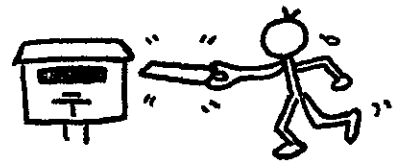


前回の続きから・・・

パンジーのメロンパンがなんとかうまく焼けそうです。パン屋が始まって以来のひねくれ者もいよいよ年貢の納め時といったところでしょうか。暑い日も涼しい日も雨の日もずっとつき合ってきた顔なじみのあの不細工なメロンパンにもう会えないかと思うと少し寂しい気もしますが、ともあれ、これからパン屋は忙しくなります。この忙しい中で我々の貴重な戦力のひとつであるメロンパンがうまく出来るようになったというのはすごく嬉しいニュースでした。しかし、パン屋はこれで満足できないのです。将来を見すえた場合、いろんな課題が浮かび上がってきます。配達や店売りの事もそうですが、そろそろ新しいメニューも欲しいなあ、まだ使っていない器械もあるしなあ、など考えたりはしているのですが。

(よしたけ)

軽作業 けいさぎょう



この不景気のおかげで仕事がない！！と騒いでいた軽作業部門ですが、めでたく新しい仕事が見つかりました。

その中に「ピラ配り」という仕事があります。これは広告をもらってきて、それを折り、一件一件の家のポストへ入れていくというものです。夏の暑い時期、カンカン照りつける太陽の下、汗をふきふき配っていきます。おかげさまで海や山へ遊びに行かなくても真っ黒に日焼けしました。時には玄関で犬に吠えられたり、時には道に迷いそうになりながら、また、雨が降ってきたりしたこともありました。それにもめげずポストを見つけては走って入れに行くメンバー。この便りがみなさんに届くころには、すっかり秋になりこの仕事もやりやすくなっているのでしょうか・・・。もしピラを配っている姿をみかけたらぜひ、声をかけて下さいネ。

(はま)

厨房 ちゅうぼう



台風情報と共に秋がかけ足でやってきました。パンジーの厨房でお昼ごはんを作り始めて半年、カウンターの内外の景色も、通って来る人達の特徴もだんだん見える様になりました。「今日は〇〇さんお休み、どうしたのかな」「〇〇さんイメージチェンジしてる」「〇〇さん元気ないね」など、相棒幸女さんとの会話も日々広がっています。初めから“給食を調理する”というプロの意識はなく、ごはんとおかずを作る家庭の延長の気持ちで半年過ごしてきました。おかずは野菜中心のうす味なので、若い人達には物足りないとも思います。1、2ヶ月に1回のバイキングメニューの時は揚げ物や肉類のお皿が先に空になります。これから人数が増えると共に材料の仕入れ方など根本的に見直すと同時に合理的な調理に移行せざる得ないのでは・・・と今後の課題として目下考慮しています。

(河野)



どらえもん会について

栗岡 和美

私はまだ2回しかどらえもん会に参加していません。私は毎月、1週間の内、月・水・金と、あとは体の調子が良ければ土曜日も、といかんじでこのパンジーへこさせてもらっている為、どらえもん会のある土曜日にかさなる月がなかなかありません。気付いてみたら、9月のどらえもん会が3回目なのです。

1回目に参加した時のみんなの話題は、給料についてどうしていったらあがるのかという話の時でした。私は1ヶ月の内、半分くらいの日数しかこれないし、あんまり給料のことについてはえらそうに言える立場ではありません。でもみんな、お金はないよりある方がいいでしょう。

2回目の時はレクレーションの事でした。月1回、いろんな行事をみんなで考えていっています。その内容はどらえもん会でいろんなレクレーションを出し合い、その時に参加しています。その行事のレクレーションなどについてきめる時が、ちょうど2回目のどらえもん会でした。

私も、行事には体の調子が良くなってから参加させてもらいたいと思います。参加したら、又、それについてもいろいろ意見がでてくると思います。どらえもん会では意見を出し合い、みんなで楽しい職場になるよう考えていっています。

パンジーメンバー紹介 しょうかい!

吉竹 敦生

(よしたけ あつお)

よく晴れた日にスクーターで出かけるのが好きです。しかし今年の夏は、雨ばかりだったのでスクーターに乗れず、少し不機嫌でした。パン屋で働いていますが、素人なので皆さん暖かい目で見守ってやって下さい。



荒井 俊行

(あらい としゆき)

パンジーの友だちと遊んでいます。パンの仕事と軽作業、一人でできるとき、がんばっています。パンジーの庭園で、僕はステレオプレイヤーの音楽を聞きながら踊ります。朝、住道駅から一人で歩いて行きます。歩きながら汗がいっぱいだけれど、シャワーを浴びます。元気の顔でよく頑張ります。



野畑 宏治

(のぼた こうじ)

好きな食べ物 パン、クッキー、カレー

趣味 うた

ぼくは遊び人です。パンジーは楽しい。映画に行ったり、こうえんへ遊びに行きたい。パンを焼きたい。



芳野 朱美

(よしの あけみ)

初めての人はたいてい「吉野」と書きます。めんどうな時は放って、元気な時は「芳」という字を伝えます。花を育てたり、みるのが好きです。「輪廻転生」に関する本を読みながら「現在」を考えるのが好きです。

あと1年すれば不惑の年代ですが、近ごろようやく自分が好きになってきました。今までぼや~と心の周辺で生きてきた気がします。





西岡 美恵

(にしおか みえ)

こんにちわ。西岡美恵です。パンジーにきて、たくさんの友達が出来ました。私はきれい好きでいつも手はピカピカにしています。

パン屋や内職で頑張ります。これからもよろしくおねがいします。



平石 満彦

(ひらいし みつひこ)

好きなものは、どじょう汁、カラオケ、ボーリング、読書（特に推理小説、特に立ち読み）。嫌いなもの、競馬、競輪、パチンコ。なぜかという、もうかるわけがないし、そんなだけだから。おまけにサラ金で首がまわらなくなり、刑務所へいくのがいやだから。



福田 直美

(ふくだ なおみ)

私は、パンジーで、仕事を、しています。パンを、つくったりして、はたらいています。西尾君と、なかよくしています。私は、ないしょくも、しています。なかまが、たくさんいるので、にぎやかです。きゅうしょくは、オイシイです。お母さんと、よくくちげんかを、します。ふくだなおみ。私は、自分で、ともだちには、親切にしています。私は、いえにかえると、はらが、たちます。



辻本 義雄

(つじもと よしお)

人生色々有りましたが、いよいよ終着駅が近づいて来た様に思ふ昨今です。最後に残された職場と考え、自分の持てる力を全部出し切って、健康に注意し人生を全うしたいと思ひ、毎日暮らしています。

村上 謙二

(むらかみ けんじ)

私(幸女)から見た村上君で書かせていただきますと、(村上君に書いてもらいたいんだけど、村上君がいないんだよー)彼はパンジーに来るなり、事務所に駆け上がる。そして一日中、忙しそうに事務所で仕事をしているかのように見える。(実際しているのかどうか私は知らない)真面目な顔をして忙しそうにしている顔は、事務員さんそのものなのだ。(彼はたぶんその気だ)



肌勢 俊一

(はだせ としかず)

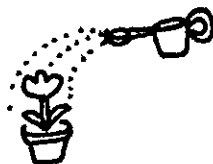
僕はここへはじめて来たとき不安でしようがなかった。ここへ来たときどんなところかなと思った。前の会社にも一人だけ障害者の子がおったけど、その子はやめた。こんど行っているパンジーの仕事はわからないけど、そこでみんなと友達になれる。一人一人、顔をおぼえていっしょに仲間になり、これから僕もがんばります。



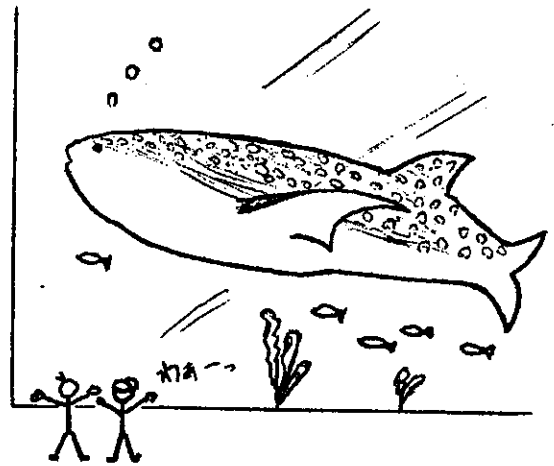
山内 英樹

(やまうち ひでき)

好きなことば:「ニョーン」「3じーはっ(3時半のこと)」「レストラン、カレーたべるっ。」パンジーのしごとで好きなこと:花に水をあげること。みんなにお茶をいれること。でんきをつけること。はいたつに行くこと。とくいなこと:くちぶえ。好きなたべもの:からあげ。カレー。……まわりのメンバーから見た彼は、背が高くてなかなかのおとこまえ。涙をながして泣くことのできるステキな人です。



“はじめまして”
ヘルパーの
○○です!
のコーナー



パンジーと出会って3ヶ月しかたっていないのに、パンジーのみんなとはもっと以前から仲間だったような気がします。

僕が初めてヘルパーとして参加したのは、長居公園に電車で行ったときでした。車いすの梅原君がプールからあがった後、「気持ちよかったなあ。」と満点の笑顔をくれたのが印象的でした。2回目はバスで兵庫県のグリーンピア三木へ泊二日で旅行した時でした。夕方、バーベキューでペアを組んだ武田君が焼き肉を気持ちいいぐらいにあげてくれたことや、みんなで花火大会をやったことを思い出します。3回目は水族館「海遊館」を見学しました。大勢の人の中、車いすの西尾君、河野さんと共に、のんきなラッコ、大きな大きなジンベイザメを見ました。

これら一回一回が貴重な体験であり、僕にとって忘れがたいものになりました。パンジーのみんなの特徴は、いついっても笑顔で迎えてくれることです。だから、会うだけで元気がでます。そして、初めてのヘルパーに対して、その緊張をほぐすよう気使ってくれる優しさには胸を打たれます。そして、一人一人がとても個性豊かで僕にはないすばらしい感性をそなえています。だから、僕が日常生活の中で忘れてしまいがちな素直な喜びに気付かせてくれます。それから、ヘルパーとして失敗の多い僕を暖かく見守ってくださるパンジーの職員の皆さんに感謝します。

最近、パンジーの話をするといつも是非参加したいという人がまわりに何人もいます。みんなそんな機会がないか待っていたようです。いつまでも元気で愉快なみんなのパンジーであってほしいと思います。

全障連大会に参加して



東 敦子(徹)

9月4日と5日は全障連大会に行きました。その全障連した所から電車が見えました。俺は浜田さんの横に座って、もう一つの横はあかの他人の姉ちゃんでした。眠くなったので「俺をゆみちゃんと思う訳にかへんか。」と言ってもたれかかっていると、林さんは「5才の子とは思われへん。」と言ったので、俺は畳の上で寝てました。「こいつこれ以上喋らしたら何言うか分からへんから」と俺が言うと「いいから、言ってよ。」と言いました。そしてあんまりしょうもない質問なので松本さんにたたかれました。

オープンハウスの時に劇したら良かったと思います。どんな劇かと言うと、パイ投げです。志村けんの役は浜田さんで、加藤茶の役は西尾さんで、ケーキ持って来る人の役は小川さんで、俺はまん中の人の役に希望します。

何故グループホーム(寮)に入りたいかと聞かれたので、「うるさいお姉ちゃんが居なくなるから。」と答えました。僕は大学でちいろばクッキーと云うものを買いました。小さいロボの省略形です。誰か「ソフトってソフトクリームの省略形ですか。」って質問しました(笑)、是は俺より面白い質問と思いました。俺が寮に入ったら、晩ご飯とお風呂は俺が決めます。

あけみ

知的障害者の主体性や自立の問題を正面から考えるようになったのは、身体障害者の自立運動よりずっと遅れて、最近になってからです。知的障害者は「相手に伝える」ことが苦手なため当事者の運動が起こりにくかったことと、彼らの主張を真剣にきく廻りの人が少なすぎたためです。(かくいう私もその一人です…)

一昨年来日したピープルファースト(知的障害者で組織している運動団体)のトムさんの「障害者を遅れた環境のまま留めておく状況」の指摘には、これまで漠然と思っていたことを、初めてことばで確認させられた気がしました。

パンジーのメンバーもパンジーの「どらえもん会」、国障年の「なかま会」、全障連の「知的障害の仲間の分科会」などに参加しています。いろいろな場で自分の思いや意見を主張する楽しさときびしさを、経験してほしいと思います。

1人、1人障害の違い、生活環境の違いはあっても、誰もが自分の人生の主人公になれるはずで、自己実現を追求する権利を持っています。自立のための体験宿泊、次のグループホームへの取り組みなど具体的方法を模索しながら、1歩ずつ実現していききたいなあ…

学習コーナー

『障害者の自立と親の自立』(3)



by 楠 敏雄

これまで私は障害児(者)を持つ親の意識について、随分あからさまな指摘を行ってきました。しかし私は決して障害者の親を敵視しているつもりもなければ、今すぐに意識変革を迫っているわけでもありません。もちろん、そうした親の弱さを克服するにこしたことはありませんが、人間誰しも(かくいう私自身も含めて)そう簡単に変わるものではないからです。ただ、この間私があえて親の意識を分析してきたのは、彼らにまずそのような自らの弱さや危険な意識の現状を的確に知って欲しかったからです。昔、ギリシャの哲学者ソクラテスが提起した「汝自身を知れ!」は、極めて当たり前のことを言っているようで、実はそれほど容易なことではないように思えてならないのです。誰でも「自分のことは自分が一番よく知っている」と思いがちですが、それはしばしば、自分のほんの一部を知っているにすぎぬ場合が多いのです。そして障害者の親達がたえず口にする「この子のことは私がなんでも知っている」もまた危険な思い込みであることをしっかり認識して欲しいのです。

重度重複の障害者の場合といえども、それはやむなく代弁するのであり、常に正しい代弁であるのか否かを自分自身にそしてたとえ「ことば」という表現手段を持たぬ障害者・児であっても、その本人に問いかける姿勢こそが求められているのです。

さらに「この子よりも一日でも長く生きたい」との親心は痛いほどよく分かるつもりですが、もうそろそろ、深刻な顔をしてそんなことばかり言い合うのはやめにしてもらいたいものです。そんなふうに住みまでわが子を抱え込まねばなどと思わぬことなのです。そんなふうに住まれ、実際にそのようにされたら、その障害者の人生は親以外の誰とも出会うことのできぬ、閉ざされた寂しい人生になってしまいます。たとえ親の思いは真剣であろうとも、障害者自身にとっては、やはり「大いなる迷惑」ということになります。少なくとも健常者のわが子に対してそう思うのと同じように、障害者に対しても成人に達したら自分のもとから巣立って欲しいと願い、そうできるように行政や周りの人たちに協力を依頼することです。そして親自身は障害者のための人生ではなく、自分自身の人生を持った自立した一市民としてその障害者の自立を援助して欲しいのです。

(つづく)

これからのレクレーションの予定です。

- 10月 2日(土)……・カラオケとショッピング
・石切、生駒方面の散策
- 11月 6日(土)……・大阪市立大学の学園祭
- 12月18日(土)……・忘年会(上本町六 ナニワ会館)



御協力ありがとうございます。

＜カンパ、寄付をいただいた方です＞ (敬称を略させていただきます。)

堀 智晴	土橋 恵子	杉本 アキ子	久保田 卓
国乗 きみ	柳 久子	錦見 はま	青山 純代
前田 静江	坂本 カヨ		
高井田中学校生徒会		大倉振興株式会社	

＜後援会員になっていただいた方です＞

田中 誠	木村多加緒	久保田 卓	大槻 小波
西本 和枝	竹川 節子	青 新一	岩佐 フミ子
田村 美恵子	中 浩二		

パンジーでは後援会員を募集しています。

パンジーの活動に御協力をお願いします。

賛助会員	1口	1ヵ月	500円
本会員	1口	1ヵ月	1,000円
特別会員	1口	1ヵ月	5,000円
郵便振替番号 大阪5-300551			
クリエイティブハウス「パンジー」			

編集人 東大阪市東鴻池町2-4-8
 クリエイトハウス TEL:0729-63-8818
 “パンジー” FAX:0729-63-8825

発行人 関西障害者定期刊行物協会
 大阪市城東区東中浜2-10-1-3
 緑橋グリーンハウス1F・7F企画気付